

現場紹介

堺市丹上シールド(作)

久本・岸本JV

工事概要

震災・事故に強い水道を目指して

大阪府下の水道は、1951年(昭和26年)に給水を開始して以来、現在までに60年の歳月が経過しました。このため、水道施設の老朽化が進み、施設更新の時期を迎えています。特に、昭和30年代以降の水需要の急増期に整備した主要な送水管、ポンプ場、浄水場といった多くの大規模施設が、今後20年以内に順次、耐用年数を経過することになります。

このような状況をふまえ、大阪広域水道企業団では、震災などの大規模災害時においても最低限の日常生活や社会経済活動の維持に必要な水を供給できるように整備を進めています(図-1)。

また、震災などにより給水ができなくなった場合でも府民のみなさまに水を供給できるように、応急給水拠点を設けます(図-2)。

さらに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、水道・電気・ガスなどのライフラインが、地震および津波によって甚大な被害を受けました。大阪府下においても、近い将来、南海・東南海地震といった大規模な地震の発生が予測されています。主要な系統を「あんしん水道ライン」(図-3)と定め、段階的に施設更新・耐震化を進めています。

工事後の目標給水量

第3期中期末
(平成31年度)



X



60
万m³/日

最低限の日常生活を
維持できる水量

第5期中期末
(平成41年度)



100
万m³/日



X



最低限の社会経済活動を
維持できる水量



※大阪府水道地震対策基本方針(平成8年9月)における目標緊急給水量原単位に基づく。

図-1 目標給水計画

応急給水場



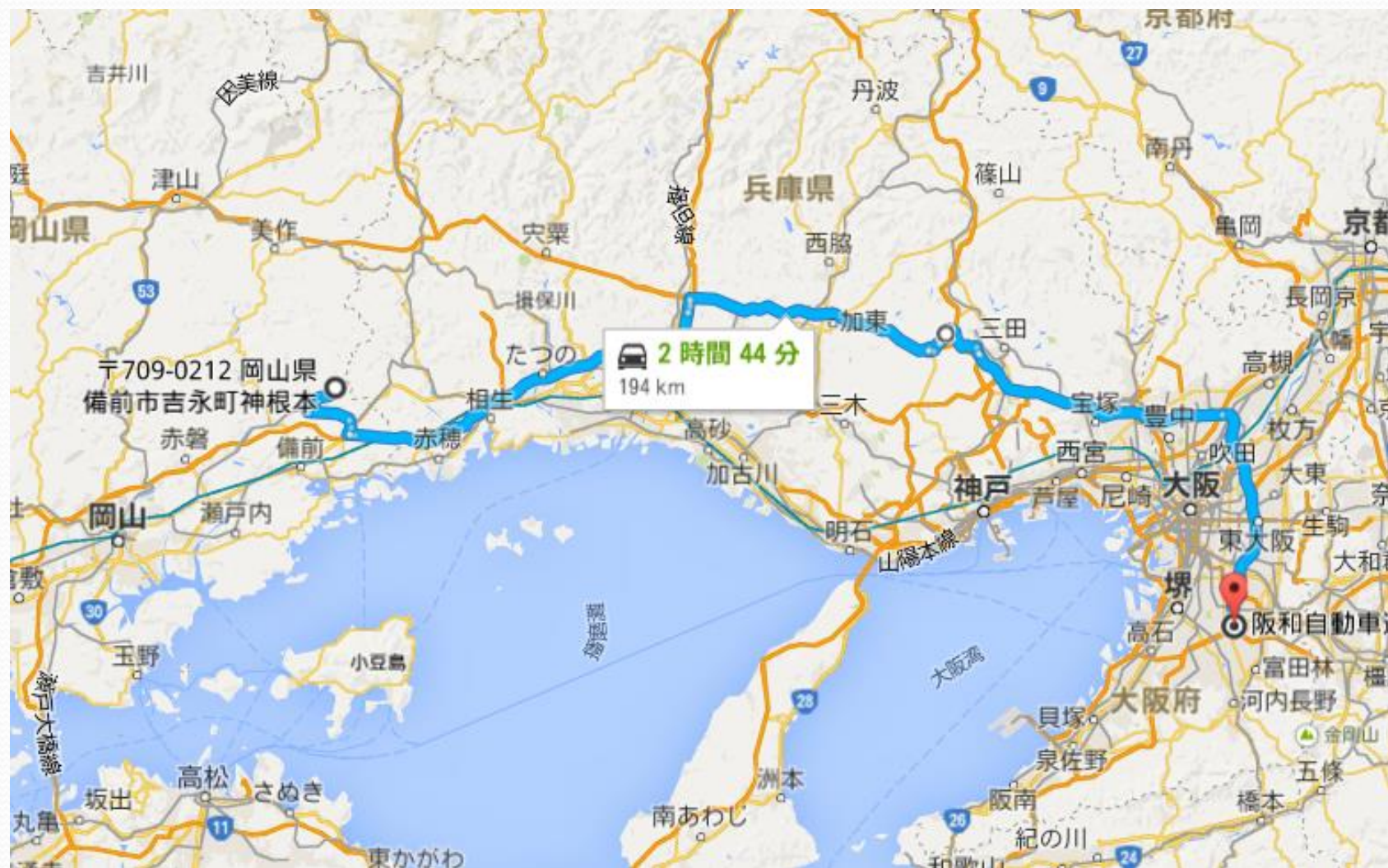
図-2 応急給水拠点イメージ図

あんしん水道ライン



図-3 あんしん水道ライン

工事場所



現場写真！ 美原ロータリー下



現場写真集！ ヤード



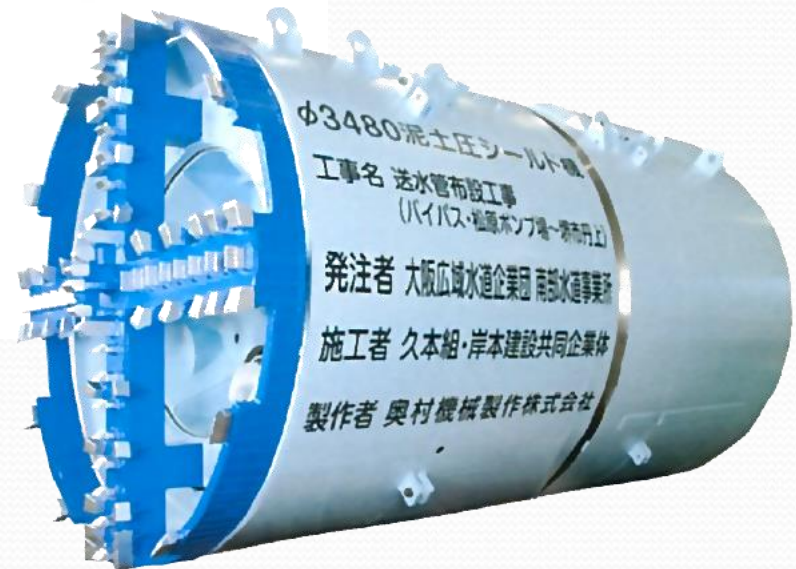
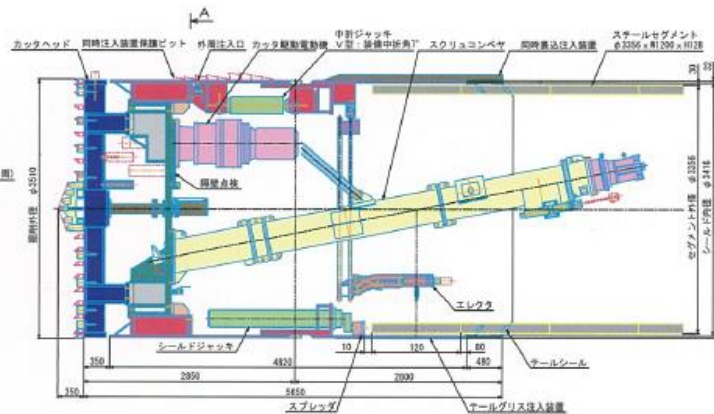
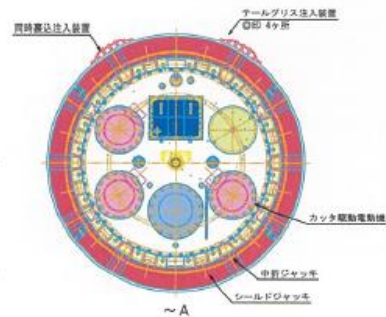
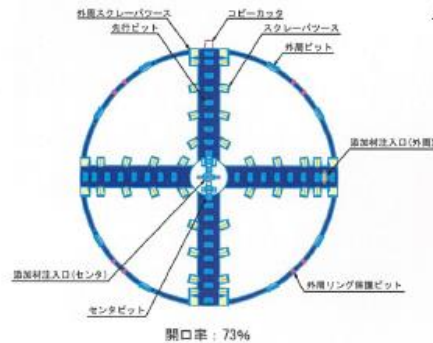
工事場所

平面図

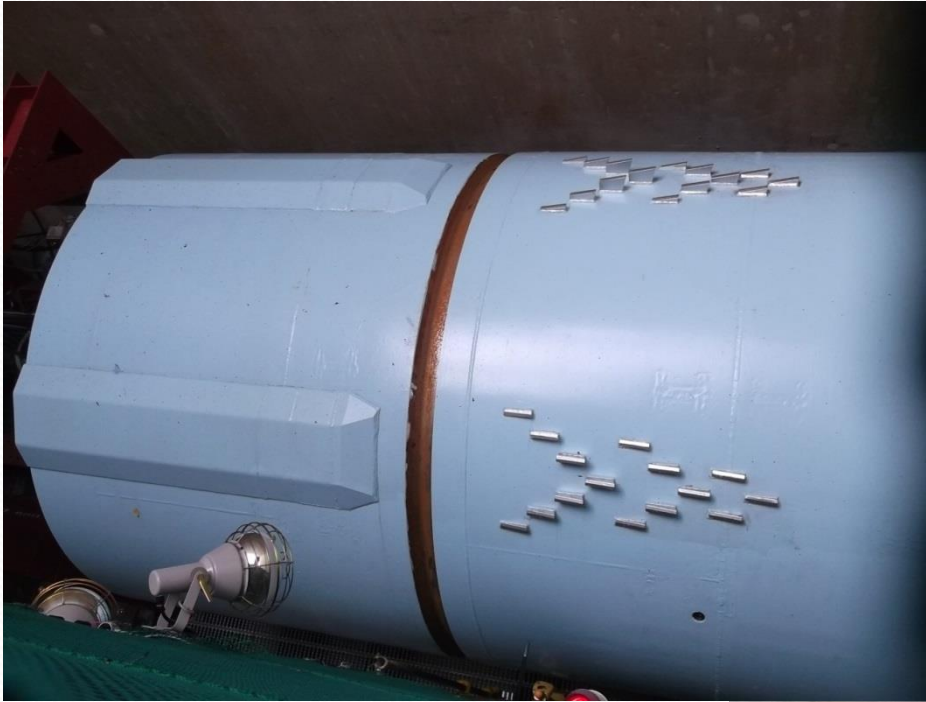


マシン概要

シールドマシン



マシン外形



縦坑下

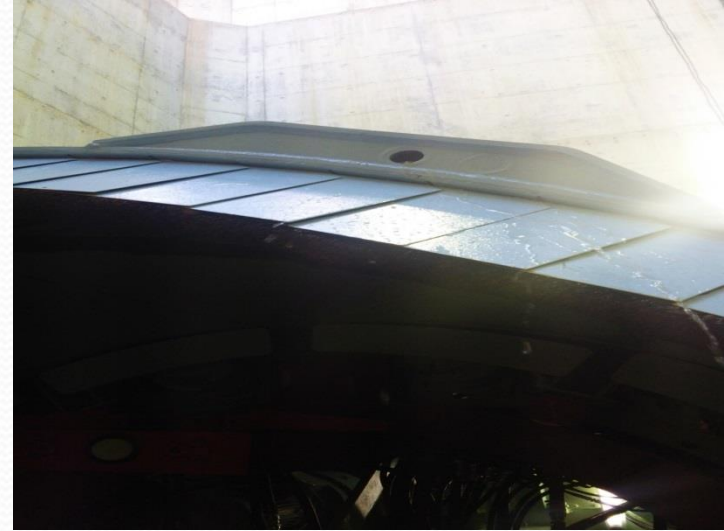


3.5世代同時注入管

ミキシングB液ノズル取外状況



噴射テスト



初期掘進

